



クラウドデータの管理

Cloud Data Sense

NetApp
June 15, 2022

目次

クラウドデータの管理	1
Data Fusion を使用して個人データ識別子を追加する	1
コンプライアンスアクションのステータスを表示します	3
データセンサクションの履歴を監査します	4
データセンサスキャンの速度を下げる	6
Cloud Data Sense からのデータソースの削除	7
Cloud Data Senseをアンインストールしています	8

クラウドデータの管理

Data Fusion を使用して個人データ識別子を追加する

Data Fusion では '企業のデータをスキャンして' データベースから一意の識別子がファイルまたはその他のデータベースで見つかったかどうかを確認できます基本的には 'クラウドデータ検出スキャンで識別される個人データの一覧を作成しますこれにより、機密データが存在する可能性のある場所に関する全体像が _all_your ファイルに表示されます。

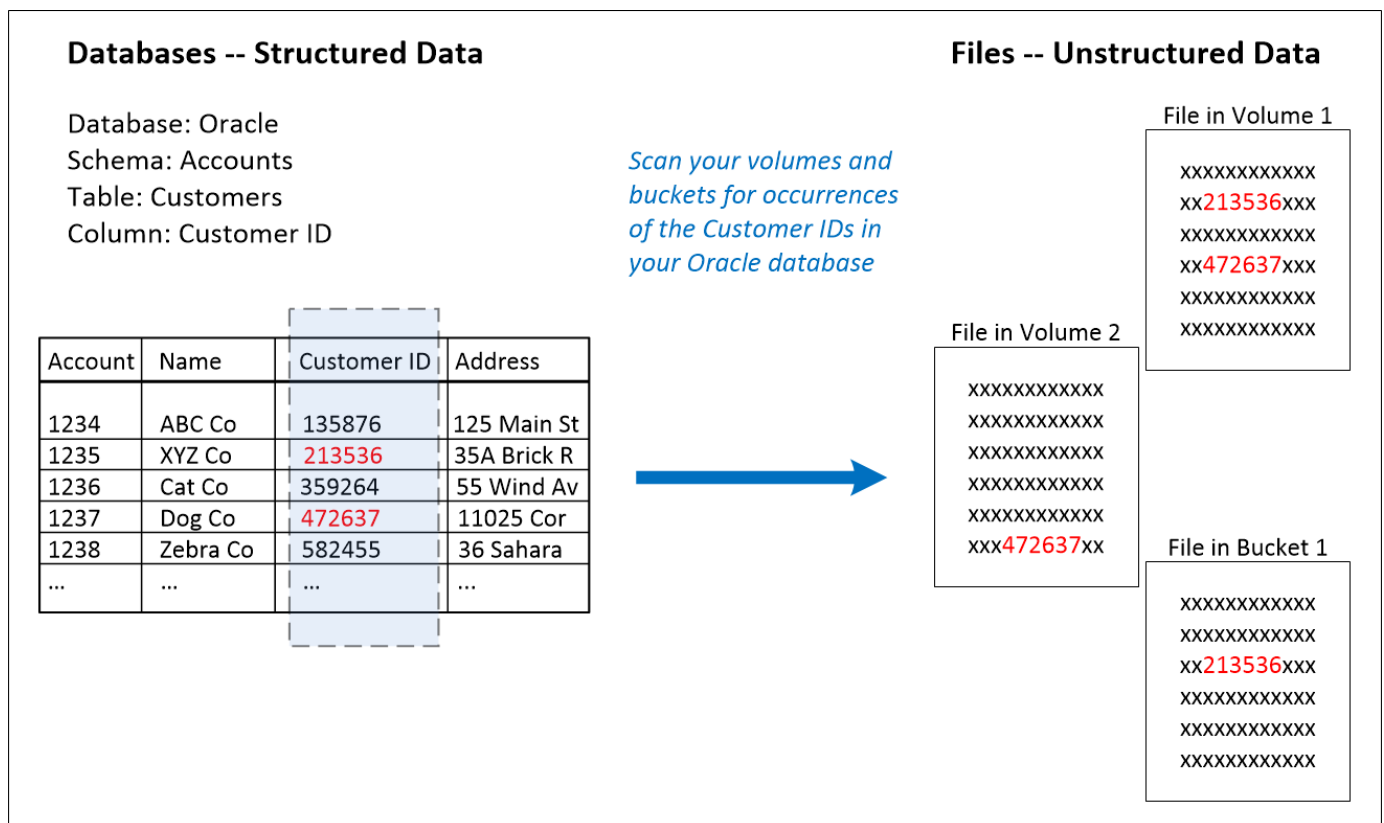
独自のデータベースをスキャンするので、データが保存されている言語に関係なく、将来の Cloud Data Sense スキャンでデータを識別するために使用されます。



このセクションで説明する機能は、データソースに対して完全な分類スキャンを実行することを選択した場合にのみ使用できます。マッピングのみのスキャンを実行したデータソースでは、ファイルレベルの詳細は表示されません。

データベースからカスタムの個人データ識別子を作成する

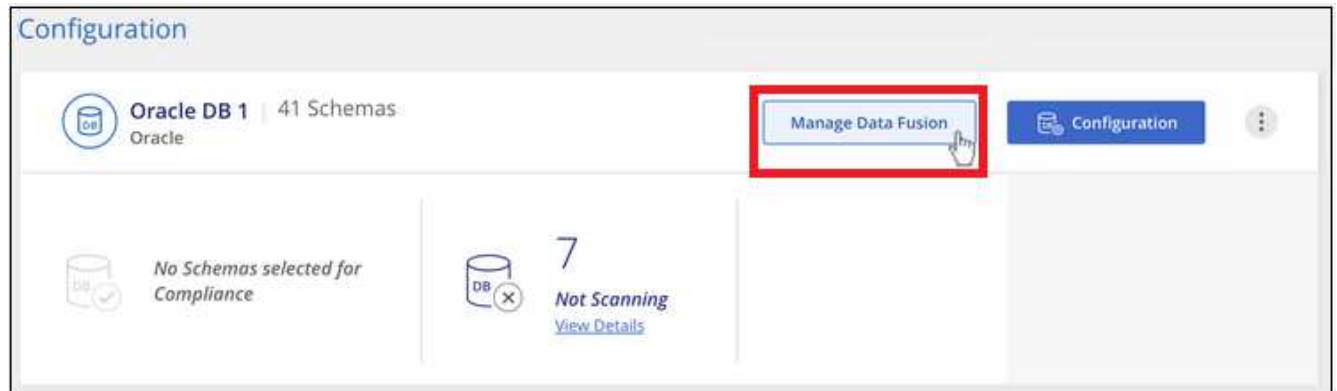
データベーステーブルで特定の列を選択することにより、クラウドデータセンスがスキャンで検索する追加の識別子を選択できます。たとえば、次の図は、Data Fusion を使用してボリューム、バケット、およびデータベースをスキャンし、Oracle データベースからすべての顧客 ID が出現する状況を示しています。



このように、2つのボリュームと1つのS3バケットにそれぞれ一意の顧客IDが見つかりました。データベーステーブル内の一致も識別されます。

が必要です "データベースサーバを少なくとも 1 つ追加しました" データ Fusion ソースを追加する前にクラウドデータを検出

1. [構成] ページで、ソースデータが存在するデータベースの [データ Fusion の管理] をクリックします。



ボタンを選択するスクリーンショット。"]

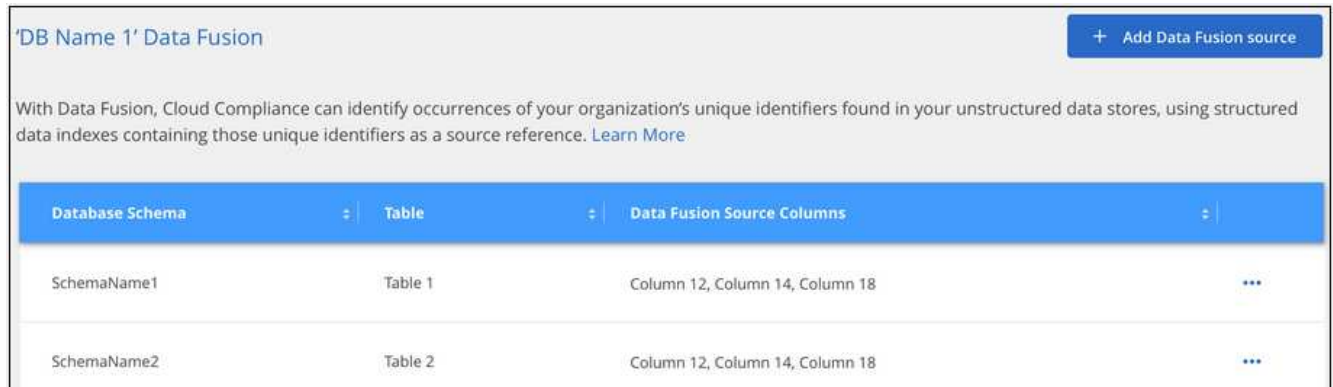
2. 次のページで [Add Data Fusion source*] をクリックします。
3. [Add Data Fusion Source_] ページで、次の手順を実行します。
 - a. ドロップダウンメニューからデータベーススキーマを選択します。
 - b. そのスキーマにテーブル名を入力します。
 - c. 使用する一意の識別子を含む列を入力します。

複数の列を追加する場合は、各列名またはテーブルビュー名を別々の行に入力します。

A screenshot of the 'Add Data Fusion Source' form. The title 'Add Data Fusion Source' is at the top. Below the title, there's instructional text: 'To add a Data Fusion source reference, specify one or more columns which contain your organization's unique identifiers, such as a column used to store customer IDs.' and a note: 'Note that adding a Data Fusion Source will initiate an additional scan of your data stores'. The form has two input fields: 'Database Schema' with the value 'Oracle1,Accounts' and 'Table' with the value 'Customers'. Below these is a section titled 'Columns Containing Identifiers' with a list box containing 'Customer ID'. At the bottom, there are two buttons: 'Add Data Fusion Source' and 'Cancel'.

4. [Add Data Fusion Source*] をクリックします。

Data Fusion インベントリページには、クラウドデータセンズでスキャンするように設定したデータベースソース列が表示されます。

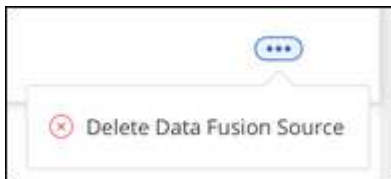


Database Schema	Table	Data Fusion Source Columns
SchemaName1	Table 1	Column 12, Column 14, Column 18
SchemaName2	Table 2	Column 12, Column 14, Column 18

次のスキャンの後、この新しい情報は、[個人] 結果セクションの [ダッシュボード]、[個人データ] フィルタの [調査] ページに表示されます。追加した各ソース・カラムは 'フィルタ・リストに "Table.column" として表示されますたとえば 'Customers .Customer ID' のように表示されます

Data Fusion ソースの削除

特定の Data Fusion ソースを使用してファイルをスキャンしない場合は、Data Fusion インベントリページからソース行を選択し、[* データ Fusion ソースの削除 *] をクリックします。



コンプライアンスアクションのステータスを表示します

たとえば、100 個のファイルを削除するなど、多くのファイルで [調査結果] ペインからアクションを実行すると、プロセスに時間がかかることがあります。これらの非同期アクションのステータスは、_Action Status_Pane で監視できるので、すべてのファイルにいつ適用されたかを知ることができます。

これにより、正常に完了した操作、現在実行中の操作、および失敗した操作を確認できるため、問題を診断して修正できます。

ステータスは次のいずれかになります。

- 完了しました
- 実行中です
- キューに登録され
- キャンセルされました

- 失敗しました

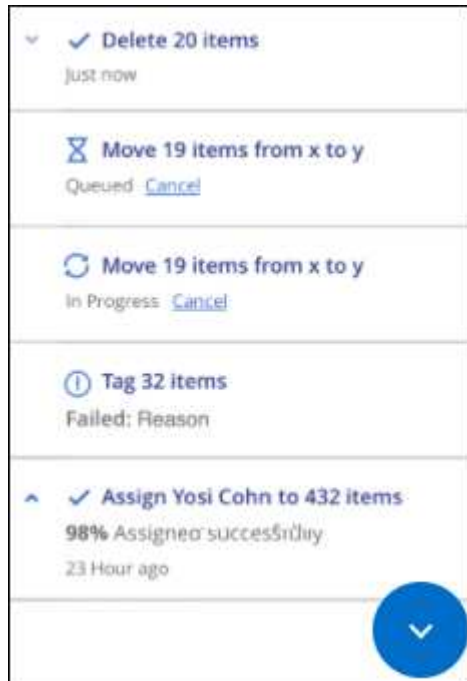
ステータスが「Queued」または「In Progress」のアクションはすべてキャンセルできます。

手順

1.

データセンス UI の右下には、* アクションステータス * ボタンが表示されます 。

2. このボタンをクリックすると、最新の 20 件のアクションが表示されます。



アクションの名前をクリックすると、その操作に対応する詳細を表示できます。

データセンスアクションの履歴を監査します

データセンスは、データをスキャンするすべての作業環境およびデータソースのファイルに対して実行された管理アクティビティを記録します。データセンス監査ログファイルの内容を表示したり、ファイルの変更内容をダウンロードしたりできます。

たとえば、発行された要求、要求の時刻、ファイルが削除された場合のソースの場所、ファイルが移動された場合のソースとデスティネーションの場所などの詳細を確認できます。

ログファイルの内容

監査ログの各行には、次の形式で情報が表示されます。

```
`<full date>|<status>| datasense_audit_logger |<module>| 0 | 0 | File <full file path> deleted from device
<device path>-<result>
```

- 日付と時刻—イベントの完全なタイムスタンプ

- Status -情報、警告
- アクションタイプ（削除、コピー、移動、ポリシーの作成、ポリシーの更新、JSONレポートなどをダウンロード可能）
- ファイル名（ファイルに関連するアクションの場合）
- アクションの詳細—何が行われたか：アクションによって異なります
 - ポリシー名
 - 移動元と移動先のデータ用
 - コピー元およびコピー先の場合
 - タグの場合：タグ名
 - をクリックします
 - Eメールアラートの場合—Eメールアドレス/アカウント

たとえば、ログファイルの次の行は、コピー処理が成功し、コピー処理が失敗した場合を示しています。

```
2022-06-06 15:23:08,910 | INFO | datasense_audit_logger | es_scanned_file
| 237 | 49 | Copy file /idanCIFS_share/data/dopl/random_positives.tsv from
device 172.31.133.183 (type: SMB_SHARE) to device
172.31.130.133:/export_reports (NFS_SHARE) - SUCCESS
2022-06-06 15:23:08,968 | WARNING | datasense_audit_logger |
es_scanned_file | 239 | 153 | Copy file /idanCIFS_share/data/compliance-
netapp.tar.gz from device 172.31.133.183 (type: SMB_SHARE) to device
172.31.130.133:/export_reports (NFS_SHARE) - FAILURE
```

ログファイルへのアクセス

監査ログは、Data Senseマシンの「/opt/NetApp/audit_logs/<date>/DataSense
audit_log<date>_<process_name>.log」に保存されています

オンプレミス環境の場合は、ログファイルに直接移動できます。

データセンスをクラウドに導入した場合、データセンスインスタンスにSSHで接続できます。システムにSSHを実行するには、ユーザとパスワードを入力するか、Cloud Manager Connectorのインストール時に指定したSSHキーを使用します。SSHコマンドは次のとおりです。

```
ssh -i <path to the ssh key> <machine user>@<datasense ip>
* <path to the ssh key>= ssh認証キーの場所
* <マシンユーザー>:
```

+

AWSの場合=<ec2-user>を使用します

Azureの場合：Cloud Managerインスタンス用に作成したユーザを使用します

** GCPの場合：Cloud Managerインスタンス用に作成されたユーザを使用します

- <data sense IP>は仮想マシンインスタンスのIPアドレスです

システムにアクセスするには、セキュリティグループのインバウンドルールを変更する必要があります。を参照してください ["ポートおよびセキュリティグループ"](#) を参照してください。

データセンススキャンの速度を下げる

データスキャンは、ストレージシステムとデータにほとんど影響を与えません。ただし、影響が非常に小さい場合でも、低速スキャンを実行するようにデータセンスを設定できます。

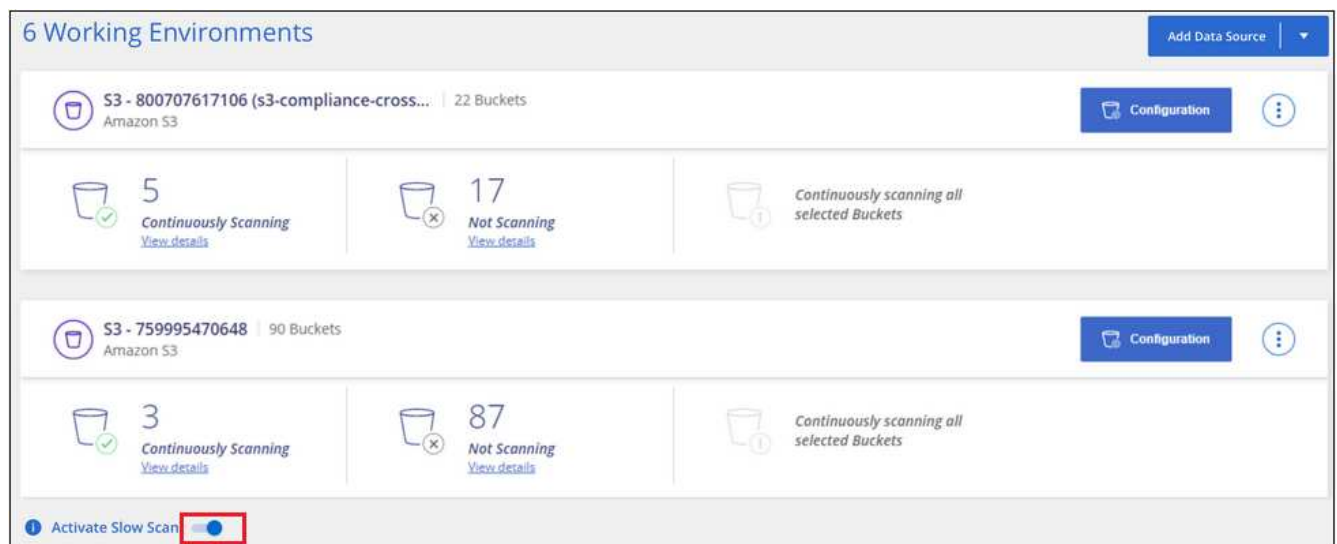
有効にすると、すべてのデータソースで低速スキャンが使用されます。1つの作業環境またはデータソースで低速スキャンを設定することはできません。



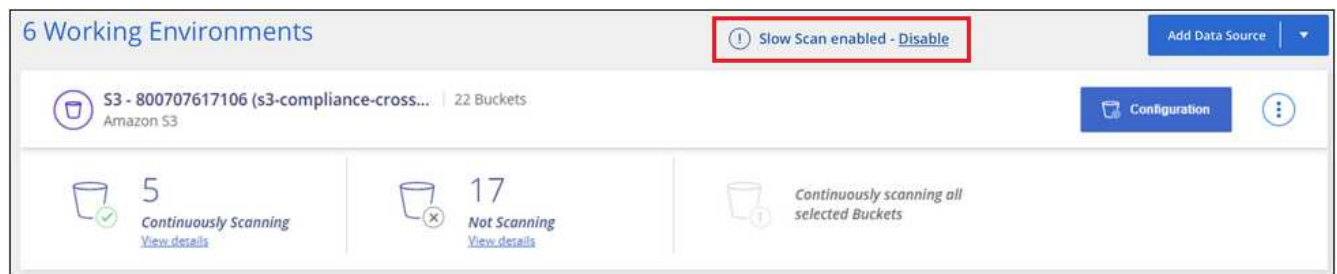
データベースのスキャン中は、スキャン速度を下げることはできません。

手順

1. _Configuration_page の下部から、スライダを右に動かして低速スキャンを有効にします。



設定ページの上部には、低速スキャンが有効になっていることが示されます。



2. このメッセージの * 無効 * をクリックすると、低速スキャンを無効にできます。

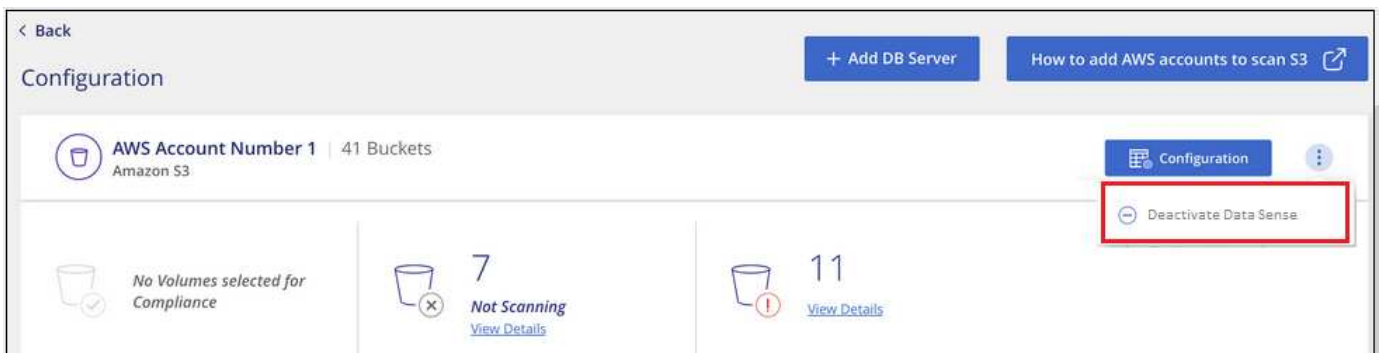
Cloud Data Sense からのデータソースの削除

必要に応じて、1つ以上の作業環境、データベース、ファイル共有グループ、OneDrive アカウント、Google Drive アカウント、または SharePoint アカウント。

作業環境のコンプライアンススキャンを非アクティブにします

スキャンを非アクティブ化すると、Cloud Data Sense は作業環境上のデータをスキャンなくなり、データ センスインスタンスからインデックス付きのコンプライアンスインサイトを削除します（作業環境自体のデータは削除されません）。

1. [Configuration] ページで、をクリックします [: ボタン] ボタンをクリックして作業環境を選択し、[* データセンスを非活動化 * (Deactivate Data Sense *)] をクリックします。



作業環境を選択するときに、サービスパネルから作業環境のコンプライアンススキャンを無効にすることもできます。

Cloud Data Sense からのデータベースの削除

特定のデータベースをスキャンする必要がなくなった場合は、Cloud Data Sense インターフェイスからそのデータベースを削除して、すべてのスキャンを停止できます。

1. [Configuration] ページで、をクリックします [: ボタン] ボタンをクリックし、* DB サーバの削除 * をクリックします。



Cloud Data SenseからOneDrive、SharePoint、Google Driveのアカウントを削除する方法について説明します

特定のOneDriveアカウント、特定のSharePointアカウント、またはGoogle Driveアカウントからユーザーファイルをスキャンする必要がなくなった場合は、Cloud Data Senseインターフェイスからアカウントを削除して、すべてのスキャンを停止できます。

手順

1. [Configuration] ページで、をクリックします [: ボタン] OneDrive、SharePoint、Google Driveアカウントの行にあるボタンをクリックし、* OneDriveアカウントの削除*、* SharePointアカウントの削除*、または* Googleドライブアカウントの削除*をクリックします。



ページから [OneDrive を削除] ボタンのスクリーンショット。"]

2. 確認ダイアログで * アカウントの削除 * をクリックします。

Cloud Data Sense からのファイル共有のグループの削除

ファイル共有グループからユーザファイルをスキャンする必要がなくなった場合は、Cloud Data Sense インターフェイスからファイル共有グループを削除して、すべてのスキャンを停止できます。

手順

1. [Configuration] ページで、をクリックします [: ボタン] [ファイル共有グループ] の行にあるボタンをクリックし、[* ファイル共有グループの削除 *] をクリックします。



2. 確認ダイアログで * 共有のグループを削除 * をクリックします。

Cloud Data Senseをアンインストールしています

Data Senseソフトウェアをアンインストールして、問題のトラブルシューティングを行ったり、ソフトウェアをホストから完全に削除したりできます。インスタンスを削除すると、インデックス付きデータが存在する関連ディスクも削除されます。データセンス

がスキャンされたすべての情報は完全に削除されます。

使用する必要がある手順は、データをクラウドに導入したかオンプレミスホストに導入したかによって異なります。

クラウド環境からData Senseをアンインストールする

データセンスを使用する必要がなくなった場合は、クラウドプロバイダからCloud Data Senseインスタンスをアンインストールして削除できます。

1. [データセンス]ページの上部で、をクリックします [ボタン] ボタンをクリックし、[データセンスのアンインストール]をクリックします。



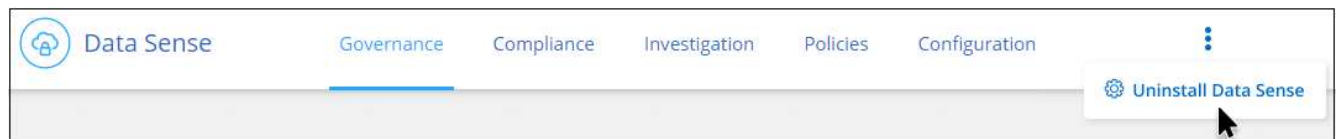
2. [データの削除]センスダイアログで、「**uninstall**」と入力して、インスタンスと関連するすべてのデータを削除することを確認し、[アンインストール*]をクリックします。

クラウドプロバイダのコンソールに移動し、クラウドデータセンスインスタンスもそこから削除できます。インスタンスの名前は *CloudCompliance_with* で、生成されたハッシュ（*UUID*）を連結しています。例：
_CloudCompliance-16bb6564-38ad-40802-9a92-36f5fd2f71c7

オンプレミス環境からData Senseをアンインストールする

データセンスを使用しない場合や再インストールが必要な問題 がある場合は、ホストからデータセンスをアンインストールできます。

1. [データセンス]ページの上部で、をクリックします [ボタン] ボタンをクリックし、[データセンスのアンインストール]をクリックします。



2. [Uninstall Data sense dialog]に「**uninstall**」と入力して、すべての設定情報をクリアしてから、「Uninstall *」をクリックします。
3. ホストからのアンインストールを完了するには、次のように、ホストマシンでアンインストールスクリプトを実行します。

```
uninstall.sh
```

著作権情報

Copyright © 2022 NetApp, Inc. All rights reserved. 米国で印刷されていますこのドキュメントは著作権によって保護されています。画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体などの機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。テープ媒体、または電子検索システムへの保管-著作権所有者の書面による事前承諾なし。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、いかなる場合でも、間接的、偶発的、特別、懲罰的、またはまたは結果的損害（代替品または代替サービスの調達、使用の損失、データ、利益、またはこれらに限定されないものを含みますが、これらに限定されません。）ただし、契約、厳格責任、または本ソフトウェアの使用に起因する不法行為（過失やその他を含む）のいずれであっても、かかる損害の可能性について知らされていた場合でも、責任の理論に基づいて発生します。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、またはその他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1 つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許により特許、その他の国の特許、および出願中の特許。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7103（1988 年 10 月）および FAR 52-227-19（1987 年 6 月）の Rights in Technical Data and Computer Software（技術データおよびコンピュータソフトウェアに関する諸権利）条項の（c）（1）（ii）項、に規定された制限が適用されます。

商標情報

NetApp、NetAppのロゴ、に記載されているマーク <http://www.netapp.com/TM> は、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。